

厚生労働省の貧困対策の取り組みが各地で行われている。貧困の連鎖を断ち切るということで、学習支援に重きが置かれている。NPOなどに事業が委託されて取り組まれることが多いが、対象者は「貧困対策」の目的から、生活保護家庭の子どもたちに絞られているようだ。今年度6月より、Ed.ベンチャーが委託を受け、愛川町の貧困対策のための学習支援教室を、すたんどばいみーが担っている。そこには多くの外国人の子どもたちの姿がある。

数回にわたって、すたんどばいみーの事務局長のチューブ サラーンさんにこの教室の現状と課題を報告してもらった。テーマは、外国人の子どもたち・貧困・自立・・・など。

☆☆☆「Friends☆Star」Reports ☆☆☆

◆新たな挑戦！愛川学習支援教室「Friends☆Star」のはじまり

県の厚木保健事務所より「生活保護世帯及び困窮世帯の子どもたちの学習支援事業」がEd.ベンチャーに委託され、その取り組みの核である学習支援教室を私たちすたんどばいみーが運営することとなった。

2016年6月15日、第一回目の教室には、小学4年生から中学2年生までの外国につながる子どもたち10名、及び2名の日本人の計12名の参加が見られた。学習教室の開室は、教室名を子どもたちに決めてもらうことからスタートした。教室名は、中学2年生の男の子の案が多数決により採用された。「星の数ほど友だちがいると嬉しいよね」という意味合いを持つこの名前にみな共感したのだ。かれらのネーミングのセンスにどこか懐かしさを覚えた。それは、わたしたちが自分たちの活動団体に「すたんどばいみー」とネーミングした10数年前の時の思い起こしたからだ。かれらが付けた教室名は、まるでいま自分たちに欠けているものを埋めるかのような思いが込められていたり、あるいは将来の自分への期待を込めてネーミングされたように思えるのだった。

「Friends☆Star」では、スペイン語が躊躇なく話されている。そうした様子を見ると子どもたちがスペイン語を容易に使うことが出来る環境にあることが伺える。また、中学生のほとんどは部活動をしているため、教室に来る頃にはどうやらお腹がすいてたまらないようだ。そのため、学習時間の合間の15分休憩になると手持ちのお菓子やジュースでお腹を充たそうとするが、成長段階のかれらにとって親から持たされるお金で買うだけのおやつでは、お腹は満たされないようだ。みな自分の食べ物を大事にしていて、他の子に分けるほどの余裕はない。

学習支援は夕方の18時からの2時間、中津公民館(レディースプラザ)にて行われている。委託を受ける際に厚木の方から「愛川時間がある」(つまり、愛川というゆったりとした地域で子どもたちの時間感覚をもそうさせる)と心配されていたが、実際教室が始まると、18時開始の教室にも関わらず、一部の小学生は一時間前から公民館に到着し、時間をつぶしているのだ。私たちが交通渋滞で少し遅れて到着すると、「先生、おそーい」などと言われる事もある。私たちの到着の後、遅れて部活動帰りの中学生が次々と集まる。

この事業は、学習支援事業の他に居場所づくり事業があ



ディキャンプでカヌーを初体験！

る。そのため、7月には居場所作り事業の一環として、相模湖にある「みの石滝キャンプ場」でデイキャンプを行った。初めての野外活動に子どもたちはとてもはしゃいだ様子が見られ、「来年は泊まりがいい」などの声も聞かれた。

学習教室に通ってくる子どもたちの家庭の状況は、様々な困難な状況に直面している。まず親の就労の不安定さ、あるいは就労できない健康状態にあるなどの問題を抱えている。さらに、母子家庭という女手ひとつで子どもたちを育てなければいけなかったり、と沢山の問題が家庭の背景にはあるようだ。

ともあれ、わたしたちの「Friends☆Star」はスタートしたのだ。

◆子どもたちが生活する町の状況

活動の初日、愛川町を車で走った時にとても驚きだったのは、外国人であろう人々を町のいたるところで見かけたことであった。(いちよう団地を活動拠点にしているわたしたちとしては、団地のいたる所で外国人を見かける事に驚きはないが、団地を一步出たら、町で見かける外国人が少ない事も、現在私たちが生活する地域の様子として受け止めている。)一方で私たちは情報として、工業地帯に多くの外国人世帯がいるという事も耳にしている。愛川町に関連する論文等を参照すると、2016年1月1日の時点の愛川町の総人口約4万1千人に対して外国人登録者数が約2千3百人、人口に占める割合の5.5%と県内の市町村の中で比率が最も高いと言われている。その中でも最も多いのは、南米系のブラジルとペルーであることから、南米が多く暮らす街として特徴があると言える。さらに、機械部品の加工や食品の製造業が多く立ち並んでいるため、外国人労働者に対する雇用の機会も比較的多い。どうやら愛川とはそのような町のような町である。

こうしてこの町に住む外国人の子どもたちの「自立」を目指しての取り組みが、「Friends☆Star」を通して始まることとなったのである。(次回報告に続く)



スタディ・ツアーへのお誘い

2014年の教育講演会講師の内山節先生にお話いただいた群馬県上野村への学習会を企画しました。日航機墜落事故慰霊施設、山村留学施設などを見学予定です。是非ご参加ください。

11月19日(土) 参加費6,000円(学生2,000円)
中央林間駅 出発8時 解散20時

<事前学習会 10月13日(木) 19:30~ 富士見文化会館>
担当者：池田 090-3535-1795 taka1014-imp555wrx@ezweb.ne.jp

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ お知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

2017年の教育講演会(2月25日開催予定)の準備が始まりました。講師は辻信一先生です。著書『スロー・イズ・ビューティフル』、編著書『弱さの思想』など、多くの著作があります。「弱い者」に寄り添う実践者がもつべき思想や哲学を探りあてたいという思いの先を、辻信一先生に少し照らしていただこうと思います。今年の教育講演会は「実行委員会」形式です。実行委員として講演会に参加してみたい方は、事務局までご連絡ください。

【理事のつぶやき】次期学習指導要領改訂にむけた文章からは、グローバル競争に資する人材の育成という印象を強く受ける。何だか企業スローガンのように感じてしまう。競争させられる世の中で、大人も子どもも疲れ果てている。これ以上、誰を相手に、何のために競争しなければならないのか。競争の先にあるのは、勝ちか負けかのどちらかしかない。教育基本法の第一条には、教育の目的は、人格の完成を目指し、とある。人材ではなく、人格なのだ。勝ちでも負けでもない関係の中にこそ、自らのあり方の模索が可能なのではないだろうか。(Y)